

平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

普通に暮らすために使われる税

奈良県立磯城野高等学校 一年 和田 奈々生

税と言えば、買い物をしたときに払う消費税くらいしか思いつくことはありませんでした。でも、冊子やインターネットなどで学習したことで、もっと大きな関係が私の身近なことから社会すべてにあることがわかりました。

私の通う学校があるのも、教えてくれる先生がいるのも税金のおかげです。通学するために、歩いている道路だって、税金によって作られているのです。こんなことは普段は考えていません。何も考えていなくても、普通に暮らしていけるのは、すごいことだと思います。

ずいぶん前ですが、テレビで日本に住んでいる外国の人たちに、インタビューしている番組を家族で見っていました。日本の良いところは何ですかと聞くと、救急車が無料で来てくれるとか、警察に電話したら、すぐにおまわりさんが来てくれたと答えていました。その人の国だと、今忙しいので明日行きますって言われたそうです。日本にいる私にとっては、信じられないような話でした。

ケガをしたり、急病のときには、救急車が来てくれるのはあたりまえです。火事になったら、消防車が来てくれるのもあたりまえです。ドロボウに入られたら警察が来てくれるのもあたりまえです。でも、普通に安心して暮らしていただけるのは、税が私たちの必要なことに、ちゃんと使われているからだということを、忘れてはいけないと思います。

そして、私の両親をはじめ、税金を納めてくれている人たちに感謝しないとイケないと思います。私は今は高校生で、おかしやジュースを買った分の消費税くらいしか払っていませんが、大人になって働いたら、社会で普通に暮らすためには税を納める責任があるんだと思いました。

でも、ひとつ心配なことがあります。それは、国の予算の四割が国債や公債という借金だということです。利子の分だけでも、すごい金額になっていておどろきます。このままいくとどうなるのだろうと、不安になってしまいます。人口も減って行って、私が大人になるころには、今のように安心して暮らせる社会ではなくなるかもしれないと思ったら、おそろしいです。

これからの日本にとって、とても重要な問題だと思います。大人の人も、大人になる私たちも、みんなが少しでも良くなる方法を、考え続ける必要があると思います。